

令和6年9月20日（金曜日）

予算決算委員会文教・子育て分科会

第2委員会室

出席議員

山口 悟、金内義和、西本眞造、蔭山敏明、  
石堂大輔、萩原唯典、三浦充博、牧野圭輔、  
谷川真由美

【文教・子育て委員会（こども未来局）の審査】

開会 13時31分

こども未来局 13時31分

送付議案説明

- ・議案第96号 令和5年度姫路市一般会計決算認定について
- ・議案第98号 令和5年度姫路市母子父子寡婦福祉資金貸付事業特別会計決算認定について

質疑 13時43分

（質問）

公正証書に要する費用や養育費保証契約締結の際の保証料の助成を行っている事業に関する経費はどこに含まれているのか。また、それらの助成件数が少ないと仄聞するがどうか。

（答弁）

ひとり親家庭等福祉推進事業費の中に含まれている。助成件数については、公正証書に要する費用助成は、令和3年度14件、令和4年度13件、令和5年度18件、養育費保証契約締結の際の保証料助成は、令和3年度3件、令和4年度1件、令和5年度ゼロ件である。

（質問）

養育費保証契約締結の際の保証料助成は、件数が少ないが、対象者にどのように周知しているのか。

（答弁）

離婚届を取りに来た人に、ひとり親家庭への支援情報をまとめた本市の冊子と国が作成した養育費のパンフレットを合わせて配付している。

（質問）

周知方法は適切と思うが、助成件数が少ない。今後に向けた新たな周知方法は考えているのか。

（答弁）

母子父子相談支援員が相談時に説明しているが、公正証書を作成した段階で養育費保証契約まで必要とは思わない人が多いのが現状である。公正証書の費用助成と併せて案内していきたい。

（質問）

面会交流事業は現在どのような状況なのか。

（答弁）

現在は実施していない。

（質問）

廃止時期と廃止理由について説明してもらいたい。

（答弁）

令和4年度末で廃止している。廃止理由は、全く利用がなく、委託先からやめたいとの申出があり事業廃止に至った。

（要望）

ひとり親家庭は経済的に困窮しやすいことや面会交流はメンタル面での支援となる。引き続き、ひとり親家庭への支援に注力いただきたい。

（質問）

放課後児童クラブの不納欠損額と収入未済額について、内訳等の詳細を説明してもらいたい。

（答弁）

放課後児童クラブの受益者負担金の不納欠損額は、57万3,000円、96件である。96件の内訳は保護者15人分、1人当たりの最も大きな額は7万2,000円となっている。収入未済額は、341万5,000円となり対象児童は186人である。

（質問）

児童養護施設等間食費助成金について、利用が想定を下回り不要額が多かったとの説明であったが、1人当たりの助成額は幾らなのか。

また、対象者は減少傾向なのか。

（答弁）

1人当たりの助成額は1,000円である。

対象者は令和5年度で2,119人であるが、減少傾向である。

（質問）

対象者が減少し、不用額が増加しているのであれば、1人当たりの助成金を増やすことはできないのか。

（答弁）

平成6年に単価を100円上げ1,100円の範囲内としているが、現在のところ1,000円で運用している。

(要望)

物価高騰が続いているので十分な支援に努められたい。

(質問)

母子父子寡婦福祉資金貸付事業費の令和5年度実績は、9件、585万5,200円である。

近年と比較してどうなのか。

(答弁)

令和4年度は57件であった。令和5年度の内訳は、就学貸付8件、就学支度1件の9件であるが、奨学金制度が充実してきたこともあり、減少傾向である。

(質問)

児童福祉費負担金の収入未済額583万6,410円のうち、341万5,000円は放課後児童クラブに関するものとのことであるが、残りの額について説明してもらいたい。

(答弁)

こども園の利用者負担金、いわゆる保育料が市立保育所129万7,960円、私立保育所64万2,050円。

市立保育所の延長保育の利用者負担金11万3,500円、一時預かり利用者負担金500円。

子育て短期支援事業受益者負担金36万7,400円である。

(質問)

就学援助対象者への支援は行っているのか。

(答弁)

就学援助対象の放課後児童クラブ利用者は減免ができることを案内しており、納付相談時等にも伝えている。

(要望)

ひとり親家庭や生活困窮世帯への納付相談など全体的な支援を心がけてもらいたい。

(質問)

少子化対策事業費として1億1,400万円余りを支出しているが、内訳を説明してもらいたい。

(答弁)

結婚新生活支援事業に約8,700万円。多子世帯の方への出産祝い金に約1100万円。出会い支援事業として恋活イベント開催費に約900万円。妊産婦のタクシ

ー利用料金助成事業に約800万円。恋活・婚活サポートとして、マッチングアプリの利用助成費に約30万円。ライフプランニング事業に約4万円となっている。

(質問)

他都市で実施しているような事業ではなく、本市独自のものはあるのか。

(答弁)

マッチングアプリの利用助成やライフプランニング事業は、全国的に事例が少ない。

また、妊産婦のタクシー利用料金助成事業は、他都市でも同様のものはあるが、本市は支出額を比較すると効果的に取り組んでいると考えている。

(質問)

様々な知恵を出し、取り組んでいることは理解できるものの、本市の出生数は令和5年度で3,573人にまで減少している。本市だけでなく、全国的な課題と思うがどのように考えているのか。

(答弁)

少子化対策の主な理由は晩婚化や未婚化であり、何か1つの事業で改善することは困難と考えている。

しかしながら、結婚新生活支援事業のアンケートでは、経済的不安の軽減に99%の利用者が効果を感じており、一定の効果があったのではないかと考えている。

また、ライフプランニング事業は、高校生や大学生に自分の理想のライフプランを考える機会を提供しており、地味ではあるが、少子化対策に重要な取組と考えている。

(質問)

マッチングアプリに自治体に関わることで利用者に安心感が生まれていると理解してよいのか。

(答弁)

連携協定を締結したマッチングアプリ事業者と協力し、安価な料金で利用できるようにしている。

IIMS認証マークを持つ事業者との連携は、安心材料になっていると思うが、アンケートを取っていないため、どの程度の安心感を与えているかは分からない。

(質問)

自治体に関わることで安心感が得られる一方で、トラブル時に市が責任を負わないような取決めはなされているのか。

(答弁)

マッチング事業者との連携協定の中でそのような取決めは行っていない。

(質問)

トラブル時に市に影響が及ぶことを想定する必要はないのか。

(答弁)

厳しい条件をクリアしたIMS認証マークを持つ事業者と連携しており、業者は年間を通じたパトロールや犯罪目的の利用者の排除を行っている。

そのため、基本的に業者側で規制がかかり、市に責任が及ぶことは少ないと認識している。

(質問)

こども食堂の運営支援事業に関して、対象となる子どもが来ない一方で、本来必要でない子どもが来るなど、運営上の様々なトラブルもあったと思うが、現在はどうか。

(答弁)

特に大きなトラブルは報告されていない。市内に32か所のこども食堂があり、補助を受けているのは15か所である。

補助決定前に現地確認を行い、運営者には対象となる子どもに食事が届けるように、また、市の支援が必要な子どもがいれば市につなぐように依頼しており、現在のところ、市の意向を理解した運営がなされていると認識している。

(質問)

宿泊型児童館の運営に約1億1,800万円の委託料と約7,600万円の整備事業費を要しているが、今後もこの事業を継続していくのか。

(答弁)

現在は神姫グループが指定管理者となっており、年間約1億1,800万円の運営費、今年度は10年に1回の天体望遠鏡のオーバーホール費用として7,600万円を要している。

宿泊を伴う大型の児童センターで全国的にも珍しい施設であり、今後もこの事業を継続していきたいと考えている。

(意見)

運営費が非常に高額なので、将来的には負担が重くなり、見直しを検討する時期が来るかもしれない。

(質問)

保育所・認定こども園の遊具設置工事に約1,100万円を支出しているが、具体的に説明してもらいたい。

(答弁)

毎年実施している定期点検の結果、新規の遊具設置が必要になった8園分の金額である。

(質問)

市立施設は、適切に定期点検が行われているという理解してよいか。

(答弁)

私立の場合は、定期的な点検が行われているかどうかの確認は監査指導の中で行い、公立の場合は市が責任を持って実施している。

(質問)

児童虐待防止普及啓発事業52万9,293円の内訳を説明してもらいたい。

(答弁)

主にはヤングケアラー支援研修会等の講師派遣代である。

(質問)

児童虐待に対応する費用も当該事業と同じ予算科目から支出しているのか。

(答弁)

そのとおりである。

令和5年度は大空小学校の元校長の講演料や11月の児童虐待防止月間に配布するオレンジリボンの材料費などを支出している。

(要望)

児童虐待の防止に向けて、しっかりと予算確保してもらいたい。

(質問)

宿泊型児童館の天体望遠鏡の具体的な整備内容を説明してもらいたい。

(答弁)

おおむね10年ごとに行う天体望遠鏡及び天体観測ドームのオーバーホールやそれに伴う制御システムの更新等を実施している。

(質問)

宿泊型児童館の利用状況について説明してもらいたい。

(答弁)

令和5年度は、宿泊者が6,719人、親子対象行事等の利用者が56,242人、天体観測利用者が20,028人、一般来館者が32,501人、合計115,490人である。

(要望)

全国的にも口径90センチメートルクラスの天体望遠鏡は珍しく、価値のあるものである。今後の在り方の検討も必要ではあるが、本市の貴重な財産として子どもたちが天体に興味を持つきっかけとなるようしっかり守っていただきたいと考えている。併せて、今後多くの人々に利用してもらえよう、積極的な広報活動に努められたい。

**こども未来局終了** **14時28分**  
**散会** **14時28分**

【文教・子育て委員会（教育委員会）の審査】